



KPUNews



輝ける薬学の近未来

学長 乾 賢一

夢と希望を抱いて京都薬科大学に入学された学部学生ならびに大学院生の皆さん、ご入学誠におめでとうございます。また、これまで皆さんを支えて来られたご父母やご家族の皆様も、さぞお喜びのことと存じ上げ心からお祝い申し上げます。今年は例年になく厳しい寒さが続く中での受験勉強を強いられ、何かとご苦労が多かったことと拝察いたします。

さて、2006年に始まった薬学6年制は、いよいよ完成年度を迎え1年次から6年次までの学生が揃い、今キャンパス内は活気にあふれています。同時に、本学がこれまで年次進行で進めてきた建物の新築、改築計画も順調に推移し、ほぼ整備が完了しました。すなわち建学の精神を冠にした「愛学館」、「躬行館」のすばらしい2つの建物に加えて、多目的に活用できて学生のゆとりの空間となるであろう「中央庭園」、音楽系クラブ練習棟「奏楽館」が完成するなど、京都薬科大学の歴史と伝統にまた新たなページ

が加えられ、輝ける未来に向けて力強く歩みだしました。昨年のオープンキャンパスに参加された方々は、さらに一段と進んだ環境整備に驚かれたことでしょう。今、このような恵まれた環境の中で、学生と教員が一体感を保ちながら、新しい薬学教育カリキュラムに沿った教育が実践されつつあり着実に成果があがっています。さらに、薬学教育改革の最大の目玉であった5年次生の病院、薬局での長期実務実習は、既に3クールを経験しましたが、大学教員と実習施設の指導薬剤師の努力によって、薬剤師職能について学生に強いインパクトを与えるなど予想以上の成果をあげています。

私が本学の学長に就任して早1年が過ぎました。この間に、多くの先輩の方々、京薬会の方々などからいただいた激励の言葉や私自身が経験し習得したことは多数あり、感動することもしばしばありました。その中で、やはり私のよりどころとなっているのは本学の建学の精神であります。「愛学躬行」す

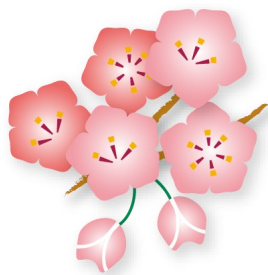
CONTENTS

輝ける薬学の近未来 学長 乾 賢一	1~2
定年退職のご挨拶	2~3
特集 6年制新薬剤師国家試験の概要とその対策	4~5
学内合同企業説明会	6~7
2011年度オープンキャンパス開催のお知らせ	8
卒業生からのメッセージ	8
受賞・掲載	9~11
2011年度入学試験結果	11
2011年度大学院薬学研究科	
薬科学専攻博士前期課程(二次募集)及び	
薬学専攻博士後期課程(冬季募集)入学選考結果	11

Pacificchem 2010 in Honolulu, Hawaiiに参加して	12
感性を磨くということ	13
Library News	14
クラブだより	15
音楽系クラブ練習棟および	
中央庭園テラス名称決定	15
お知らせ	16~18
京薬会だより	18
京都薬科大学奨学寄附金ご芳名録	19~20

なわちこの意味するところは「学問を愛するとともに、自ら実践すること」であり、そして質の高い薬剤師の養成を目指した薬学教育改革を重ね合わせると、本学が目指す人材育成、それはまさしく「ファーマシスト・サイエンティスト」にほかなりません。課題発見、問題解決型の教育を実践しながら、Science（科学）、Art（技術）、Humanity（人間性）のバランスのとれた人材育成を強力に進めたいと考えています。また大学では、教育と研究は表裏一体の関係にあります。基礎薬学と医療薬学の連携・融合を図り、本学の特徴を生かした研究展開を推進し、インパクトの高い成果を世界に向けて情報発信できることを期待しています。そのためには発想の転換を必要とします。限られたマンパワーの中で編み出された教育、すなわち上級生が下級生を教えるという医学領域の「屋根瓦方式の教育」にならって、本学独自の教育・研究を展開し、質の高い研究と優れた人材育成の伝統を継承・発展させたいと考えています。

新入生の皆さん、これからは受験勉強から解放され、本学学生として自分の意志で無限の可能性に向けて挑戦することができます。しかし同時に、「少年老い易く学成り難し」という言葉も胸にしっかりととめていただきたいと思います。志を高く持ち、種々の経験を重ねながら感性に磨きをかけ、自分のゴールに向けて着実に歩み続けてください。KPUファミリーは、いつも皆さんを応援しています。



定年退職のご挨拶



創薬科学系
薬品化学分野

教授 木曾 良明

1983年4月に前任の徳島大学薬学部より、京都薬科大学に教授として着任しました。学生時代から一貫して行ってきたペプチド化学に基づいた創薬科学の教育・研究を引き続いて行いました。当時、オピオイドペプチド等生理活性ペプチドの合成研究やレニン阻害剤のような酵素阻害剤研究を、医薬を目指して行っていました。本学に来てからは、さらにそれを発展させて、生理活性ペプチドとして、心房性ナトリウム利尿ペプチドなどの合成や、高血圧、ウイルス病、アルツハイマー病、マラリヤなどの医薬を目指したプロテアーゼ阻害剤研究を、また、有機合成化学的なペプチド合成化学方法論の開発研究を行いました。

私は、この科学技術の発展した時代に大きな教育・研究の成果を挙げるには、海外を含めた様々な専門家と共同研究を行うことが非常に重要と考えて、積極的に色々な先生方と交流し共同研究を行い、また、研究成果発表の場を設けてモチベーションを高め、さらに交流し切磋琢磨して研究のレベルを高めあうことが重要と考えてきました。その意味で、2003年に本学愛学ホールのこけら落としのような形で国際アスパラギン酸プロテアーゼ会議を行って、多数の海外からの一流研究者を招いて若い研究者を巻き込んで討論の場を設けることができたことは、とても印象に残っています。

京都薬科大学の特徴はその研究レベルの高さにあると思います。単科の私立大学でありながら教員一人当たりの論文数、さらには論文の引用度指数では日本でトップレベルにあります。このことは、1999年に文部省の学術フロンティア推進事業に採択されて京都薬科大学創薬科学フロンティア研究センターが設立され、また、2004年に本学が文部科学省21世紀COEプログラムの拠点として選ばれ、さらなる研究レベルのアップにつながったと思います。これからも、このような本学の高いレベルの研究が継続して、社会に貢献できるように願っています。

最後に、この場を借りて、研究の遂行に大きな役割を果たした本学学生・大学院生（卒業生を含む）の皆様と、学内外の共同研究者の方々に厚くお礼申し上げます。また、教職員・学生の皆様のご活躍とご健勝を心よりお祈り申し上げます。



生命薬科学系 病態生理学分野

教授 谷口 隆之

定年という響きは私にとって遠い存在であったのですが、いまは在原業平の心境です。彼の辞世の句「ついに行く 道とはかねて聞きしかど 昨日今日とは思わざりしを」 私にもついに定年が来てしまいました。

私は本学製薬化学科を昭和44年に卒業しました。その頃の本学の定員は、薬学科180人、製薬化学科60人の240人体制だったと記憶しています。私は製薬化学科でしたが、卒業時46人でした。2年次から3年次に進級するのが厳しく、何人もの留年生が出ました。就職活動は4年次の4月からで、ほぼ4月中に就職活動は終了し（就職希望者は皆決まったので）5月の連休明けには、ほとんどの製薬企業は採用活動を終了していました。当時の4年次男子学生にとっては5月末に就職先が決まっていなかった事は、就職出来ない事を意味したのです（男子学生の大部分は企業へ就職しました）。

当時の大学院事情は、京都薬科大学が私たちの卒業時に修士課程を新設する以外、国公立大学大学院しか無かったのです。ですから、大学院進学希望は国公立大学大学院進学希望とほとんど同意語だったのです。当時の大学院入学試験は4年次の9月初旬にありました。私たちの学年は薬学／製薬学科を通して、3年次の3月時点では約50人の大学院進学希望者がいたのです。それが4年次の4月になると就職活動が始まり、一人減りまた一人減りで5月の連休明けには約10人になってしまいました。私もその一人でしたが、そのストレスは相当なものでした。なにしろ就職先が無くなってしまったのですから。絶対大学院に進学しなければなりません。私たちはまさに背水の陣を味わったのです。

昭和53年から約3年間、米国ロッッシュ分子生物学研究所へ出張し、そこで最新の ^3H -ラベル化合物による結合実験方法を学びました。帰国後、 ^3H -ラベル化合物結合実験を受容体研究に応用しました。当時はまだ受容体は概念の域を出ていない状況だったので、 ^3H -化合物を神経伝達物質関連化合物とすることにより、特に神経系受容体の数値化・定量化をテーマとしました。

京都薬科大学では、昭和63年の秋から生物学教室を担当し、中枢神経系の受容体結合研究を始め、少しずつ研究テーマの範囲を広げて行きました。生物学教室／病態生理学教室（1995年に教室名変更）の教室員、大学院生をはじめ、多くの本学や他大学の先生方とアルツハイマー病・パーキンソン病関連や心

臓血管系関連の研究を行い、今日まで来ました。一緒に研究した京都薬科大学病態生理学分野の学部生、大学院生は400名を越え、論文数も100報を超えました。一緒に研究した皆様方、有り難うございました。分野／教室卒業生はそれぞれの場所で活躍しておられることを確信しています。

これを読まれる後輩学生諸君に何かの参考になればと、私の京都薬科大学に関する思い出話を書きました。中国の漢詩に「少年老い易く学成り難し 一寸の光陰軽ろんずべからず 未だ醒めず池塘春草の夢 階前の梧葉已に秋声」があります。有名な漢詩なので解説は省略しますが、恐れ多いですが私も同感です。いつまでも若いつもりがもう定年の年齢になってしまいました。時間は平等に皆さんに与えられています。時間を大切に使って下さい。在学生諸君はまず目的を持ち、それに向かって努力してください。必ず道は開けます。現在の京都薬科大学の教育・研究・キャンパス環境は過去最高だと思います。最高の勉学環境を利用して、諸君の夢を実現出来るよう努力されんことを切に祈るものであります。

最後に、大学関係者の皆様方のご支援のおかげで定年を迎えられたことを心から御礼申し上げます。有り難うございました。



1年次生の諸君、まずは入学おめでとうございます。さて改めて言うまでもないと思いますが、本学では、2006年度入学生より薬学6年制教育が開始され、この年度に入学した諸君は今年度、つまり2011年度に初めての6年次生となります。この学生諸君は、2011年度末に、すなわち2012年（平成24）3月に新薬剤師国家試験を受験することになります。

6年次生の諸君は、既に4年次において「共用試験」と総称される「OSCE（技能や態度を評価する客観的臨床能力試験）」と「CBT（コンピューターを用いた多肢選択形式の試験）」に合格し、5年次には「学外実務実習（病院実習2.5ヶ月、薬局実習2.5ヶ月）」を体験し、薬剤師となるための基礎知識、薬学の理論と実践に関する知識を学び、また様々な学習経験を積んできました。このように、実質的には1年次から継続してきた全ての努力が開花し実を結ぶために、この6年次の一年間があるのです。

この特集では、6年次生諸君の全員が薬剤師国家試験に合格することを目標とする「新薬剤師国家試験の概要とその対策」についてが、詳しく述べられています。6年次生はもとより他年次生もその内容を熟読し、自らの心構えを強固にすることを希望します。

<新国家試験の概要>

4年制国家試験は第96回が最後となり、2012年（平成24）より、新6年制課程を修めた学生が受験する新薬剤師国家試験がスタートします。当該試験においては、「薬剤師資格を有する者として必要とされる基本的な知識等のほか、薬学の全領域に及ぶ一般的な理論や、医療を中心とした実践の場において必要とされる知識・技能・態度等」が確認されます。それに伴い、試験科目等も大幅に見直されました。薬剤師は実践の場において、現行の4年制国家試験の4科目（基礎薬学、医療薬学、衛生薬学、薬事関係法規及び薬事関係制度）の個別の知識ではなく、複数の知識を複合的に使い、問題の解決に当たっていると考えられます。よって、薬剤師として必要不可欠な基本的知識（必須問題）、薬剤師が直面する一般的課題を解釈・解決するための知識、技能・態度（一般問題）が問われることとなります。新国家試験の科目、問題区分、出題数および合格基準については、以下の通りです。

新薬剤師国家試験の科目、問題区分、出題数

科目	問題区分				出題数計
	必須問題 (CBT級)		一般問題		
			薬学理論問題 (4年制国試級)	薬学実践問題 (新 設)	
物理・化学・生物	1 5 問	4 5 問	3 0 問	1 5 問	6 0 問
				(複合問題)	
衛生	1 0 問	3 0 問	2 0 問	1 0 問	4 0 問
				(複合問題)	
薬理	1 5 問	2 5 問	1 5 問	1 0 問	4 0 問
				(複合問題)	
薬剤	1 5 問	2 5 問	1 5 問	1 0 問	4 0 問
				(複合問題)	
病態・薬物治療	1 5 問	2 5 問	1 5 問	1 0 問	4 0 問
				(複合問題)	
法規・制度・倫理	1 0 問	2 0 問	1 0 問	1 0 問	3 0 問
				(複合問題)	
実務	1 0 問	8 5 問	—	2 0 問	9 5 問
				+	
				6 5 問	
				(複合問題)	
出題数計	9 0 問	2 5 5 問	1 0 5 問	1 5 0 問	3 4 5 問 (2 4 0 問*)

*4年制国試問題数

合格基準

以下の全てを満たすことを合格基準とする。

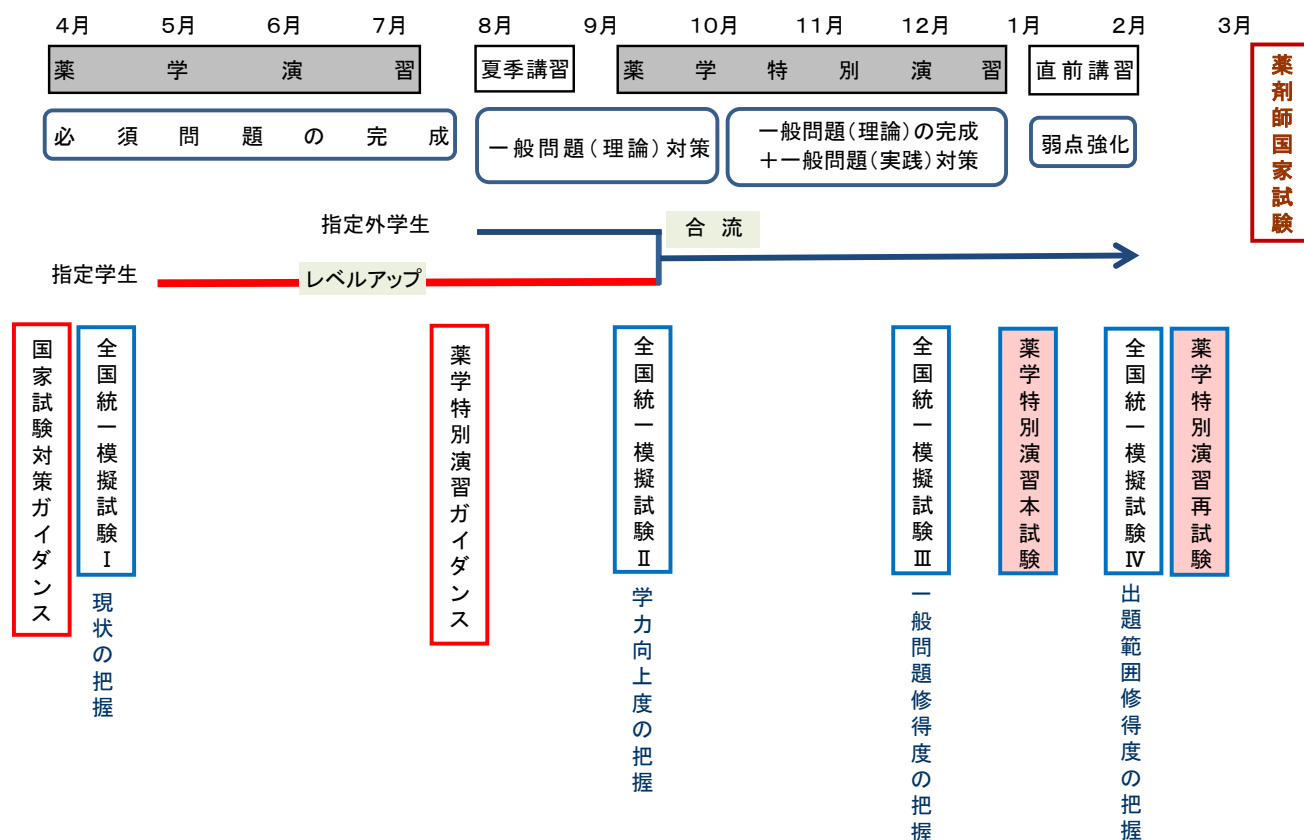
- ① 全問題への配点の65%以上とし、問題の難易を補正して得た実際の総得点以上であること。
- ② 一般問題について、構成する各科目の得点がそれぞれ配点の35%以上であること。
- ③ 必須問題について、全問題への配点の70%以上で、かつ、構成する各科目の得点がそれぞれの配点の50%以上であること。

特に必須問題においては、その合格ラインが70%と、CBT本試験の合格ライン(60%)よりも10%高くなっていることから、国家試験対策においては基礎力の定着が何よりも重要と考えられます。また、一般問題（薬学実践問題）においては、基礎系科目と実務との複合問題が出題されることになり、これまでも増して基本事項を踏まえた応用力が求められます。これまでの4年制国家試験では一見して薬剤師業務には関係ないように思われる事項についても出題されてきましたが、新国家試験では薬剤師にとって必要な知識がこれまで以上に問われることになります。従って、暗記一辺倒の勉強から、理解と応用に軸足をおいた勉強方法にシフトしなければ、国家試験合格は難しいでしょう。試験間際になって、慌てて勉強しても間に合わず、何よりも、日頃の勉強が重要になってくると思います。

<2011年度 6年次生国家試験対策スケジュール>

6年次の国家試験対策の概略は下図の通りです。

目標：国家試験を単なる資格試験ではなく「薬学総合試験」と捉え、これまで学んだことを今一度整理し、基礎学力を定着させることはもちろんのこと、薬学に関連した複合的な問題にも対応できるような総合力を身につける。



前期は、基礎力が十分でないと判定された学生を対象に薬学演習を行います。薬学理論および実践問題に対応できるようになるための基礎力を定着させ、後期から始まる薬学特別演習で、対象外の学生と合流しても問題ないレベルへの到達を図ります。後期の薬学特別演習では、まず薬学理論問題について講義を行い理論の完成とともに、さらに薬学実践講義を通して、応用力の養成を目指します。一方通行の対策ではなく、双方の対策、すなわち学生の理解度をその都度確認しながら前へと進めることに力点を置いた指導を行う予定です。

“学内合同企業説明会”を開催しました！

2006年度に薬学部6年制が導入され、その第1期生となる6年次生がいよいよ就職活動の時期を迎えました。

就職活動が本格化する前の昨年12月に、各企業の採用担当者に大学へ来ていただき、学生と企業との接点を持つ場として開催されたのがこの学内合同企業説明会です。

希望企業を選定するための一助となることを目的としたこのイベントの当日の様態並びに学生や企業からの感想などをお伝えします。

進路支援部

5年次生（現6年次生）を対象とした学内合同企業説明会は、2010年12月8日（水）に本学中央講堂兼体育館で開催されました。午前・午後での入れ替え制とし、午前51社・午後53社の全体で104の企業が参加しました（詳細は次頁参照）。

業種は、製薬企業を主としたメーカー、CRO、SMO、医薬品卸売企業、薬局とし、その中から過去の就職実績や企業からの情報提供の回数などを基準として選定しました。

本学の学内合同企業説明会の特徴は、なんといってもその規模です。一日に100社以上もの企業が集まる説明会というのは、薬系大学では最大規模のものです。またこれだけの規模にもかかわらず、1社ごとに仕切りをしたブース形式で開催できる点も特徴的で、企業からは「他社の動きが気にならず説明に集中できた」などの感想をいただきました。

このように多くの企業が一堂に集まるこの貴重な機会を大いに活用しようと、5年次生を中心に多くの学生が集まりました。5年次生は337名のうち305名が、その他の学年も29名が参加して、全体で334名が参加しました。リクルートスーツに身を包んだ学生は、開場と同時に各々が希望する企業のブースに駆け寄り、メモを取りながら熱心に説明を聞いていました。時には積極的に質問をする光景も見られ、就職活動に向けての真剣さ・緊張感が伝わってきました。また、就職情報会社のブースも設けていましたが、そこへも学生が集まり、就職活動全般についての相談が寄せられました。

参加した学生からの声として、「一度に多くの企業の話が聞け、企業間の比較ができた」「本学の学生に合わせた説明であったため、踏み込んだ話が聞けた」「採用担当者との距離が近く、気軽に質問ができた」などの意見が聞かれ、この機会を大いに活用できた様子でした。

企業側からは、「職種に対する理解が進んでおり、効率的に説明ができた」「礼儀・マナーがきちんとしており、気持ちよく参加できた」「開場設営などで綿密な準備がされており、安心して参加できた」などの感想が寄せられました。

一方で、企業・学生両者から聞かれた不満点として、会場の寒さが挙げられます。体育館での開催と

いうことで全体に暖を行き渡らせることが難しいため、予め入場者全員に携帯カイロを配布するなどの対策を施しましたが、まだ十分な対策となっていないのが現状です。

進路支援部では、今後も就職環境の動向を睨みつつ、学生や企業の意見を聞きながら、この説明会をより有益な機会としていきたいと考えています。また、参加した学生全員が、この機会を活かした就職活動を進めていけることを心から願っています。



説明会会場全体の模様



ブースでの様子

業種名	参加企業名
メーカー	アステラス製薬
メーカー	アストラゼネカ
メーカー	エーザイ
メーカー	大塚製薬
メーカー	小野薬品工業
メーカー	協和発酵バイオ
メーカー	グラクソ・スミスクライン
メーカー	興和
メーカー	サノフィ・アベンティス
メーカー	沢井製薬
メーカー	三和化学研究所
メーカー	塩野義製薬
メーカー	ゼリア新薬工業
メーカー	第一三共
メーカー	大正製薬
メーカー	大日本住友製薬
メーカー	大鵬薬品工業
メーカー	武田薬品工業
メーカー	田辺三菱製薬
メーカー	中外製薬
メーカー	帝人
メーカー	東和薬品
メーカー	トーアエイヨー
メーカー	富山化学工業
メーカー	日本イーライリリー
メーカー	日本新薬
メーカー	ノバルティスファーマ
メーカー	バイエル薬品
メーカー	ファイザー
メーカー	マルホ
メーカー	明治製菓
メーカー	桃谷順天館
メーカー	ライオン
メーカー	ロート製薬
CRO	アスクレップ
CRO	イーピーエス
CRO	シミック
CRO	新日本科学
CRO	日揮ファーマサービス
CRO	パレクセル・インターナショナル
CRO	メディサイエンスプランニング
CRO	リニカル
SMO	アイロム
SMO	エシック
SMO	サイトサポート・インスティテュート
医薬品卸	スズケン
医薬品卸	メディセオ
薬局	アイセイ薬局
薬局	アイングループ
薬局	アイングループ（アインメディオ）
薬局	アビスファーマシー
薬局	イオンリテール

業種名	参加企業名
薬局	いかがく
薬局	イムノファーマシー大阪
薬局	イング ひまわり薬局
薬局	関西メディコ
薬局	京都シグマプラン
薬局	京都ファーマ（みつばち薬局）
薬局	杏林堂薬局
薬局	キリン堂
薬局	クオール
薬局	クスリのアオキ
薬局	クラフト
薬局	グローウェルホールディングス
薬局	ケイ・ディ・フドー
薬局	コクミン
薬局	コメヤ薬局
薬局	オーパス サエラ薬局
薬局	サンドラッググループ
薬局	サンブラザ調剤薬局
薬局	J. みらいメディカル
薬局	ジップドラッグ
薬局	スギ薬局
薬局	スギヤマ薬品
薬局	セイジョー
薬局	セガミメディクス
薬局	総合メディカル
薬局	ダイゴ ヤクゴ薬局
薬局	たんぼぼ薬局
薬局	中国ファーマシー
薬局	ツバイうめ薬局
薬局	富永調剤薬局
薬局	ナガタ薬品
薬局	ニシイチドラッグ
薬局	ニチホス
薬局	日本調剤
薬局	はいやく
薬局	阪神調剤薬局
薬局	ファークス
薬局	ファーマシィ
薬局	ファーマホールディング
薬局	ファーマライズホールディングス
薬局	ファルコファーマシーズ
薬局	ブルークロス
薬局	フロンティア
薬局	ベル企画
薬局	マツモトキヨシ
薬局	マルゼン薬局
薬局	みやこ薬局
薬局	メディカプラン京都
薬局	メディカルー光
薬局	ゆう薬局グループ
薬局	ユタカファーマシー
薬局	ライフオート

○ 業種別の50音順で表記

○ CRO：医薬品開発業務受託機関。製薬企業が行う医薬品開発に関する様々な業務を受託する機関。

○ SMO：治験施設支援機関。医療機関が実施する治験に関する各種手続や実施する医師等を支援する機関。

2011年度 オープンキャンパス開催のお知らせ（入試課）

2011年度のオープンキャンパスを下記の日程で行いますので、お知り合いの受験生、高校生、そのご父母および高等学校の先生方などに、是非ご案内くださいますようお願いいたします。

詳細につきましては、本学ホームページをご覧ください。どうか、入試課にお問い合わせください。

6月のオープンキャンパス

〈日時〉

6月12日（日）

10：00～12：45

〈主な内容〉

大学紹介・在学生の話・卒業生の話・施設見学・相談会など

8月のオープンキャンパス

〈日時〉

8月6日（土）・8月7日（日）

午前の部 9：30～12：30

午後の部 13：30～16：30

（両日とも、午前、午後の内容は同じ）

〈主な内容〉

大学紹介・ミニ講義・体験実習・施設見学・相談会など

11月のオープンキャンパス

〈日時〉

11月6日（日） 京薬祭開催期間中

10：00～12：45

〈主な内容〉

大学紹介・在学生の話・卒業生の話・施設見学・相談会など

「卒業生からのメッセージ」

一期一会



奥田 宗一郎

2002年 製薬化学科卒

2004年 臨床薬学専攻

修士課程修了

（臨床薬理学教室）

株式会社マツモトキヨシ

パレマルシェ西春店

店長・薬剤師

私が京都薬科大学に入学したのは13年前の1998年です。当時の京薬は赤い煉瓦の校舎が多く、現在のモダンな校舎に比べると、どこか懐かしさの残る雰囲気であったと記憶しております。

学部時代はクラブ活動、学園祭実行委員、教室分属を通し、初めて知ることや体験する事に興味を覚え、没頭しておりました。大学院時代は学部より専門的な教室でのリサーチ活動や、病院実務研修を通して知識の幅を広げることができました。

修了後、株式会社マツモトキヨシに入社、現在は店長業務を行っており、管理業務から接客、ディスプレイ作成まで、ドラッグストアという病院・薬局とはまた違った空気感で仕事をしております。お客様の健康やライフスタイルといった、より日常に近い距離にいる為、医薬品の飲み合わせから健康食品の説明、お化粧品の種類やメイク用品の色合わせまで、直接相談を受ける事が多く、話好きの私にとっ

ては天職と思っております。一方、売上・利益等の数値管理面で振るわない事があったりもしますが、上司の指導の下、数値が劇的に改善したりといった感動もあり、薬剤師の仕事+αの仕事にもやりがいを感じております。また、縁あって関東、関西、現在は中部地区で勤務させていただき、各地で色々な思い出を作っている最中です。

この仕事をはじめて、人と人とのコミュニケーションの大切さをより実感させられました。買い物に来られるお客様は勿論、仕事仲間やお取引先様とビジネスパートナーとしてお付き合いする上で重要になります。

大学在学中、先生方、先輩、後輩と様々な方に出会い、刺激を受け、自分の考え方や価値観をゆっくりと成長させて頂いたことは一番の財産です。卒業後数年経った今だからこそ身に滲みて感じることであり、勿論これからも大切にしていきたいです。

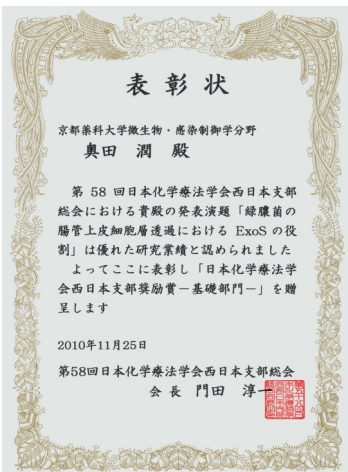
現在も大学時代の知り合いとは気軽に連絡を取れ、食事に行っては、お互いの仕事・恋愛の悩みを言い合ったり、くだらない話をし合ったり（笑）と、いい関係でお付き合いしております。当時を振り返ったり、また、今現在の話をすることは、相手にとっても、また自分にとってもかけがえのない時間です。

在学中の皆さんへ、10年後20年後、今自分の周りにいる仲間と話をしている時間を想像してみると、今とは違ったキャンパスライフの楽しみ方が見えてくるかもしれません。また、新しく入学された方々、今から出会う方々と共に一度しかない大学生活で青春を謳歌して行って下さい。

受賞・掲載

第58回日本化学療法学会西日本支部総会
「支部奨励賞-基礎部門-」受賞

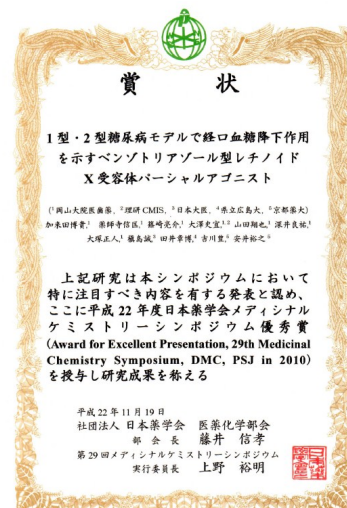
第58回日本化学療法学会西日本支部総会（大分、2010年11月25・26日）で微生物・感染制御学分野 奥田潤准教授が、「支部奨励賞-基礎部門-」を受賞しました。対象研究は「緑膿菌の腸管上皮細胞層透過におけるExoSの役割」で、緑膿菌から注入された3型エフェクターExoSと宿主細胞因子であるFXD-3との結合が細胞間接着に働くタイトジャンクションの障壁機能を破壊させ、これによって本菌が生体内に転移（トランスロケーション）する機構を分子生物学的に明らかにしたものです。血液感染の防止を目的に、免疫力が低下した患者では緑膿菌の糞便監視培養が行われます。本研究によってその意義が科学的に示されました。更なる研究の推進によって、その防止策の考案につながる事が期待されます。また、本研究は「平成22年度 京都薬科大学科学振興基金」の支援のもとに行われたものであります。



日本薬学会医薬化学部会MCS優秀賞受賞

岡山大学大学院医歯薬学総合研究科（薬学系）の加来田博貴准教授と本学代謝分析学分野の吉川豊講師、安井裕之教授らの共同研究が2010年度の日本薬学会医薬化学部会MCS優秀賞に選ばれました。MCS優秀賞は日本薬学会医薬化学部会年会（メディシナルケミストリーシンポジウム）のポスター発表の中から創薬研究の進歩と将来の発展に寄与する顕著な内容を含む研究成果に贈られるもので、例年大学関係の発表から1件（本年は2件）、企業関係の発表から4件選ばれます。受賞対象となった研究は「1型・2型糖尿病モデルで経口血糖降下作用を示すベンゾト

リアゾール型レチノイドX受容体パーシャルアゴニスト」であり、加来田准教授らが合成したレチノイドX受容体(RXR)を標的とする新規化合物が、既存の医薬品のような副作用を伴うことなく、1型や2型糖尿病モデル動物で治療効果をもつ可能性を本分野で証明したものです。



第22回ビタミンE研究会奨励賞受賞

第22回ビタミンE研究会（1月28・29日開催）において、薬品物理化学分野の博士前期課程2年内海達君が「メラノーマに対するトコフェロールコハク酸の抗腫瘍効果」、土谷博之講師が「ビタミンEの脂肪細胞における脂肪蓄積促進作用」、薬品分析学分野の武上茂彦講師が「脂質ナノエマルジョンの体内動態評価へのビタミンE誘導体の検討」という研究でそれぞれ奨励賞を受賞しました。写真は、代表幹事である吉川敏一先生（京都府立医科大学教授）から賞状をいただいているところです。



内海君

土谷講師

武上講師

病態生理学分野の研究が
Biol. Pharm. Bull. 誌の表紙を飾る

生命薬科学系病態生理学分野の北村佳久准教授、谷口隆之教授の研究がBiol. Pharm. Bull. 誌（2011年1月号）の表紙絵に選ばれました。さらに、Highlighted paper selected by Editor-in-Chiefにも選ばれました。

本研究は、同分野において新規パーキンソン病モデルマウスとして考案されていた長期経口ロテノン投与マウスの投与期間や投与濃度の再検討を行い、パーキンソン病モデルマウスとしての有用性を発表したものです。表紙絵は、共焦点レーザー顕微鏡を用いて撮影したもので、ロテノンを投与する期間が

長くなるほど、黒質ドパミン神経（上段、赤色）に、パーキンソン病の原因遺伝子の1つである α -シヌクレイン（中段、緑色）が蓄積する様子を示しています（下段、黄色）。

Inden et al. Parkinsonian rotenone mouse model: Reevaluation of long-term administration of rotenone in C57BL/6 mice. Biol. Pharm. Bull., 34, 92-96 (2011).



臨床薬学分野の研究が 薬事日報に掲載される

臨床薬学分野（峯垣哲也、辻本雅之、西口工司）にて行っている研究が、2010年12月6日の薬事日報（研究戦略 YAKU学）で紹介されました。食道癌細胞におけるシスプラチンおよび5-フルオロウラシルの感受性規定因子を抽出した研究成果が、癌化学療法における個別化治療実現につながると注目されました。

今回の研究では
食道がんでは
5-FU・4種
CDDP・8種
(OPDなど)
共通して4種

研究現場から臨床へ

YAKU学

No.15

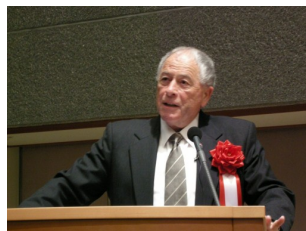
**癌化学療法における
テーラーメイド薬物
治療の実現に向けて**

がん患者は、抗がん剤を用いた化学療法を受ける。しかし、抗がん剤の効果は患者ごとに異なる。この違いは、がん細胞の感受性規定因子（DR）の発現量や遺伝子変異などによって決まる。本研究では、がん組織や血液からDRの量を測定し、最適な抗がん剤を選択する個別化治療の実現を目指す。

今回の研究では、食道がん患者の血液サンプルを用いて、5-FU、CDDP、OPDなどの抗がん剤に対する感受性規定因子（DR）の量を測定した。その結果、4種類のDRが共通して発現していることが明らかになった。この4種類のDRは、抗がん剤の感受性を決定する重要な因子であると考えられる。今後、これらのDRをターゲットとした個別化治療の実現を目指す。

第5回国際ペプチドシンポジウム参加報告

第5回国際ペプチドシンポジウム（5th IPS、木曾良明組織委員長、藤井信孝副組織委員長）が2010年12月4日（土）～9日（木）の6日間、国立京都国際会館で開催されました。本シンポジウムは第47回日本ペプチドシンポジウムと合同開催であり、文部科学省ならびに国土交通省観光庁の後援、各学会・協会の協賛で行われました。また12月7日は、国際神経ペプチド学会日本支部とのjoint sessionsとして行われました。本シンポジウムには735名（一般参加114名、学術関係366名、学生参加234名、その他21名、海外からは32カ国226名）、また最終日のBanquet & Award Ceremonyには450名以上の参加があり、文字通り国際学会にふさわしい内容となりました。本シンポジウムはペプチド科学に関連した広い領域のテーマをカバーし、受賞講演3件、特別講演2件、講演85件、若手口頭発表20件と405件のポスター発表が行われました。



Wüthrich教授（左）Yonath教授（右）の特別講演

本年度の日本ペプチド学会Akabori Memorial Awardを受賞されたStephen B. H. Kentシカゴ大教授により、最終日に受賞講演が行われました。Kent教授はnative chemical ligation手法を使ったペプチド・タンパク質の合成法を開発されました。

12月5日にはKurt Wüthrich 教授（2002年ノーベル化学賞受賞、スイス・チューリッヒ工科大学教授）がNMRを用いた蛋白質の立体構造解析に関して、12月8日にはAda E. Yonath教授（2009年ノーベル化学賞受賞、イスラエル・ワイツマン研究所教授）がリボゾームの構造と機能解明研究に関する特別講演が行われました。

本シンポジウムでは12月4日のWelcome Receptionや12月9日のBanquet & Award Ceremonyでの国際交流に加えて、12月5日にはSpeakers' Dinnerならびに若手研究者交流会を開催しましたが、これらの機会に研究者が国際的に親しく懇談したことは非常に意義深いものでありました。また会期中は天候にも恵まれ、外国からの参加者には世界遺産をはじめとした名所・旧跡を訪れた方々も多かったようで、我が国ならびに京都を知っていただく絶好の機会となりました。このような大きな国際会議が京都で開催されたことは我々の研究面でも刺激となり、またスタッフとして参加させていただいた我々や学生のみならず

んにとっても貴重な経験になったと思います。



Speakers' Dinnerおよび Banquet & Award Ceremo-

Ada E. Yonath博士の特別講演会報告

12月13日には、本学躬行館3階T31講義室においてキュリー夫人から4人目の女性のノーベル化学賞受賞者であるAda E. Yonath博士による特別講演会が開催されました。当日、Yonath博士はリボソームの構造と機能に関する研究について、最新の成果を含めつつも、学部学生や大学院生にも理解しやすい形で大変丁寧かつ親身にご講演されていました。また、本講演会の後は、創薬科学フロンティア研究セン

ター・薬品化学分野を訪問され、教員・スタッフ・学生との懇談を行いました。本学教員・学生にとってはノーベル賞学者の講演を生で拝聴し、その卓越した雰囲気を感じることのできる大変貴重な経験になったものと思います。



講演中のAda Yonath博士



薬品化学分野にて

2011年度入学試験結果について

2011年度の学部入学試験が終了しました。志願者数・合格者数は下表のとおりです。

高等学校の進路指導担当者及び受験教育専門機関等の情報によると、2008年秋のリーマンショック等経済危機以降の景気の低迷から、受験生は経済的負担の少ない国立大学や地元志向の傾向が強く、今後も全国私立薬系大学は志願者確保を維持することに苦戦をしいられていくこととなりそうです。

このような厳しい状況下、オープンキャンパス、大学説明会（広島、岡山、愛知、三重で開催）、進学説明会・相談会、模擬講義、高校訪問、予備校訪問等の活動により志願者の維持・確保に努めてまいりましたが、2011年度の本学への全体の志願者数は、前年比93.4%となりました（2010年度は、前年比97.1%）。

2012年度入学試験についても広報活動を通じて、志願者の拡大・確保に努める所存であります。もし、皆様のご親戚、ご近所、高校の後輩等で、大学受験を控えた方がおられましたら、本学受験をお勧めくださいますようお願いいたします。

	募集人員	志願者数	合格者数
指定校制推薦	65名	50名	50名
一般公募制推薦	80名	272名	80名
一般入学試験A方式	30名	759名	308名
一般入学試験B方式	180名	1,084名	429名
一般入学試験C方式	5名	32名	12名

（合格者数は3月15日現在）

2011年度大学院薬学研究科薬科学専攻博士前期課程（二次募集）及び薬学専攻博士後期課程（冬季募集）の入学選考結果

2011年度薬学研究科薬科学専攻博士前期課程（二次募集）の入学選考を2月16日（水）に実施し、2月24日（木）に合格発表を行いました。

2011年度薬学専攻博士後期課程（冬季募集）の入学選考を1月26日（水）に実施し、同日に合格発表を行いました。

薬科学専攻博士前期課程（二次募集）の志願者は4名で合格者は4名、博士後期課程（冬季募集）の志願者は2名、合格者は2名でした。

○2011年度薬科学専攻博士前期課程（二次募集）の合格者数等

	一般	外国人特別
志願者数	2名	2名
受験者数	2名	2名
合格者数	2名	2名

○2011年度薬学専攻博士後期課程（冬季募集）の合格者数等

志願者数	2名
受験者数	2名
合格者数	2名

Pacificchem 2010 in Honolulu, Hawaii に参加して

代謝分析学分野 M2 柴谷 衣里、内藤 行喜、夏目 優太郎、松尾 岳志

2010年12月15日より6日間行われた環太平洋国際化学会議(Pacificchem2010)に参加するため、本分野の吉川講師とともにアメリカはハワイ、ホノルルへ向かいました。7時間のフライトを経て、世界有数の観光地であるワイキキビーチを有するオアフ島に到着しました。到着日の前日にはホノルルマラソンも開催され、街は参加者で賑わっていました。

この学会は環太平洋化学会に属する科学者および技術者が一堂に会する学会であり、日本からはもちろん、環太平洋に留まらず、遠くはヨーロッパからも参加されていました。私たちにとって初めての国際学会でしたので、期待に胸を膨らませる反面、普段使い慣れていない英語での発表に対する不安もありました。また、エントリーした演題全てが受理されるわけではないので、まず審査にパスしなければなりません。したがって、受理された時は大変嬉しく思いました。私たちの演題はポスター発表として選ばれましたが、2時間の間、ポスター前にたくさんの研究者が集まり、活発な質疑応答がなされることで、英語での発表内容の説明や質問対策など事前に練習し、この学会に臨みました。実際にポスターの前に立つまで、正確に質問内容を聞き取り、伝えたいことを正確に伝えることができるのか不安でいっぱいでした。ふたを開けてみると日本人の方が多く、外国の方々も理解しやすい表現やジェスチャーを交えて話して頂いたので、苦戦しながらもディスカッションすることができました。大学の研究者の方だけでなく企業から参加されている方、また薬学の分野に留まらず、理工学系の分野の方にも質問を頂き、私たちの研究内容に興味を持って頂いていることがとても嬉しく、研究に対する意欲の向上にもつながりました。薬学からの視点のみならず、幅広い分野からの視点といった研究室内のディスカッションからは得られにくい貴重な意見を頂きました。本学会の発表内容の中には論文にはまだ発表されていない、新しい知見も多く見られ、最新の研究に触れることもできました。

学会の雰囲気は今まで参加させて頂いた国内の学会とは異なり、朝にはコーヒーやマフィン、夜にはお酒とスナックが準備されていて、自由な雰囲気で活発な議論が繰り広げられていました。また、開催地がハワイだけにアロハシャツでの参加者も多く見受けられました。

滞在期間中は、ハワイの観光スポットにも足を運ぶことができました。動物を探すのに苦戦したホノルル動物園、世界最大の迷路に挑みつつも時間足らずで悔しい思いをしたドールプランテーション、快晴に恵まれたダイヤモンドヘッド登頂など、とても

楽しい時間を過ごすことができました。またその中で出会った、現地の方や他の国からの観光客の方との交流を通じて異文化に触れることができました。そして、最終日には、ハワイで有名なカフェのコーヒーを片手にワイキキビーチに行き、充実した滞在を振り返りました。

初めて海外で発表し、第一線で活躍されている世界各国の著名な方々から直にアドバイスを頂くというまたとない機会を得ることができ、貴重な経験をさせていただきました。自分自身の研究内容を英語で討論するという経験を通じ、有意義に学会に参加できたと感じました。また、語学力の大切さを学び、今後より一層の努力が必要だと痛感しました。

末筆ながら、今回のような学会発表の機会を与えて下さいました安井教授、現地で私たちを引率して下さった吉川講師、また学会の参加に御配慮いただいた理事長、学長をはじめ、大学関係者の方々に深く感謝いたします。



学会会場にて



学会発表風景

「感性を磨くということ」

薬化学分野 教授 上西 潤一

教員が何を考えているのか発信する事は学生諸君との考えの間に埋める意味もあり、大切ではないかと感じています。そこで、私が長い間感じてきた「感性が大事である」という話を書かせて頂きたいと思います。

「自分にとってこれまで無かった初めてのことで、さてどうしよう?」「最先端の話で調べても前例がまったくない、さてどうする?」諸君は、これまでこういうことに出会いませんでしたか?

大学生の諸君が子供の時から学校で勉強してきた事は、これまで受験を含め、論理性に基づいたトレーニングです。いわば如何に筋道だった考え方が出来るかを問いかけて来たとはいえます。実際に、だからこうなるという考え方が出来ること「論理性」は、数学や確立されている科学に代表されるように合理性に基づいた解答を導ける力を養ってくれます。しかし、論理というのはこれまでの事実の集積とそれから導きだされた法則の体系であり、それ以上でも以下でもありません。

科学に限らず初めての何かに出会った場合、人はまず過去に集積された知識や情報を基に論理的に解釈しようと試みます。しかし、それに基づく論理的な答えだけでは、乗り切れない場合が多くあります。分かりやすく言えば、どうしてよいか闇の中の手探り状態におちいります。そんな時に役立つのが感性です。科学に携わっていると論理的に絞り込んだ中で、それを越える決断を求められますが、それには鋭く研ぎすまされた感性が重要な役割を担います。

こういった事はおそらく科学の世界だけではなく、大なり小なり各人が現実としてそう云う場面や課題に遭遇していることでしょう。将棋の羽生善治名人の著書にはよくそんな記述が出てきます。名人は定跡や考え抜いた末の一手より、直感で出てくる一手の方が正しい場合が多いと述べています。実際、論理の積み重ねであるコンピューターは将棋の世界ではなぜかまだ名人に勝てません。芸術評論家は絵画や彫刻を論理的に言葉で説明し如何に作品が素晴らしいかを表現しますが、なぜ自分では作品を作れないのでしょうか。客観的な立場で論理的な解釈は出来ても、技能に加えて芸術家として作品を創り出す感性が不足しているからでしょう。スポーツ評論家とプレイヤーの関係でも同じことがいえます。有能なサッカー選手は、瞬間々々のプレイを感覚的にこなしています。面白いことに同時に冷静にゲームの流れを論理的にも読んでいるといえます。すなわち、感性が多くを支配するような状況でも論

理的な思考ができていのでしょうか。また、一流の人物は論理的に思考しながら、かつ深い感性を同時に働かせているのではないのでしょうか。

しかし、問題は論理性を伸ばす為のトレーニング方法はあまた存在しますが、感性を伸ばす為の合理的な方法は無いことです。陶芸家に弟子入りすると、師匠のすることを見て感じて技を盗み、自分の力で感性を高めます。スポーツでも同じで、見て感じて、練習し実戦を積み自己の感性を高めます。

科学の世界ではどうでしょう。知識や情報で解釈できる常識的な現象でなく、まったく未知の現象が起きた場合、あるいは壁を乗り越える為に未知の領域に足を踏み入れようとする場合、磨かれた感性が大いに力を発揮します。では、科学において感性を磨くにはどうすれば良いのでしょうか?これにも合理的な正解はありません。もちろん、立派な科学者に直接触れ学ぶことが出来ればよいでしょうが、なかなか叶うものでもありません。長年化学に携わって来て思い起こせば、30才代化学者としてもっとも手

と頭が動く時には、薬匙で結晶をとるとびつたりと重さどおりであったり、化学反応を仕込んでも反応時間や温度、試薬の量、溶媒の濃度などおもしろいほど感が正確に働きました。思えばその頃に感性が鋭く磨かれていったように思えます。化学の実験はやればやるほど「重さ、長さ、量、時間」など感覚がまず身に付きます。学生さんには、先に天秤にかけず、自分で何mgか推測してから天秤に掛ける、スペクトルを測定する前にこうなるだろうと予測する、反応をかけて結果が出る前に収率を予想する、というようなことから始めて、非論理的な自分の感性を磨き始めるとよいと勧めています。こういう作業は癖がつくと意外に楽しいものです。

最先端の崖っぷちに立たされた時、過去は役に立ちません。帰納したり演繹して出した結論よりも、感性は実際の決断に大いに役に立つものです。感性は文字通り感じる性質のもので、芸術、スポーツ、自然鑑賞、ギャンブル、何でもよいでしょうが大いに感じて感性を深める作業に積極的に取り組むとよいと思います。セレンディピティとはそういう中から生まれるのでしょうか。論理性を軽視するものでは決してありませんが、その上に是非、自分の感性を磨いて行くことを頭の片隅に置いて頂きたいものです。

開 館 日 程

2011年 4月

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

休館

9:00-20:00

2011年 5月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

10:00-17:00

休館=館内整備

2011年 6月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30		

5年次生、6年次生の図書館利用について

薬学6年制教育の学年進行に伴い、2011年度からは実務実習のために一時大学から離れる5年次生とアドバンスド教育へ進む6年次生が構成されることとなります。この課程では修学の仕方などの面において1～4年次生とは大きく異なる点があるため、図書館の利用についてもそれに応じた内容に改めることになりました。

1) 休館日における図書館利用が一部可能になります

毎月末には書架上の図書の並びを正したり、利用傾向に応じて図書の置き場所を変えたりする館内整備を実施するため休館にしています。また、3月下旬には図書館全体の図書を総点検する蔵書点検という作業のために1週間ほどの休館日を設けています。このような休館日に大判プリンターを使用したり、雑誌のチェックやコピーを取ったりする場合に限り、入館を可能といたします。ただ、図書館スタッフは館内整備などに従事しているため、迅速・適切な利用支援が行き届かないこともありますので、特に大判プリンターを初めて使用する方は、使い方を知っている人の協力を得るなどが必要になるかと思えます。

2) 「マイライブラリ」経由の学外文献複写申込を受け付けます

図書館ホームページにある「マイライブラリ」に入ると文献複写の申込み手続きができるようになっています。この機能を活用してください。申込みに当たっては論文名、著者名、収録誌名とその巻号・刊行年などが正確である必要があります。また、一度申し込んだもののキャンセルはできません。さらに、料金決済の都合上、速やかに複写物の受領と料金納付のなされることが必要です。このような注意事項や遵守事項のご理解を得たうえで、このサービスを利用していただきますので、利用前に図書館カウンターで利用申請の手続きをとっていただきます。この申請のない方の「マイライブラリ」からの複写申込みはお受けすることができません。なお、複写物の受領は図書館カウンターでしていただきますが、実習などで図書館へ来られない場合は、代理の方による受領と料金納付が可能です。



クラブだより

硬式庭球部

(2010年度活動実績)
関西薬学生連盟硬式庭球大会

男子団体の部 準優勝
女子個人の部 第3位

(活動予定)
3月 春合宿
8月 関西薬学生連盟講式庭球大会

(部員数)
男子 2年次生5人、1年次生4人
女子 2年次生4人、1年次生3人 計16人

陸上競技部

今後の大会予定
2011年 5月 全日本薬学生対抗陸上競技大会
8月 関西薬学生対抗陸上競技大会
全日本医歯薬獣医大学対抗陸上競技大会
10月 関西医歯薬科学生対抗陸上競技大会

2010年の活動実績
男子 全医110mハードル 5位・6位入賞
全医400mハードル 6位入賞
関医110mハードル 5位入賞
女子 全医100m 6位入賞
関医100m 4位入賞

バドミントン部

バドミントン部は毎週火、木曜日の週2回、男女一緒に仲良く練習しています。

夏には関西薬学生バドミントン大会、秋には医師薬リーグ、京都リーグというように一年を通して様々な大会にも参加しています。2010年度は、夏の関西薬学生バドミントン大会で女子シングルス2位、女子ダブルス3位、また京都リーグでは男子ダブルス4位など優秀な戦績を残しました。

2011年度も4月には新1年次生がメンバーに加わり、人数も増えよりにぎやかな部活へとになっていくことでしょう。

さまざまなイベントや、未経験者・後輩の指導、そして大会に向けた日々の練習をコツコツと、そして何よりも楽しく行っていくことをモットーにこれからも頑張っていきたいと思います。

剣道部

我々京薬剣道部では礼儀を重んじて、厳しい練習を週3回行っております。

年間行事としては、新歓、花見、4薬合同稽古、BBQ、試合(年8試合)があり精力的に活動しております。

剣道部と聞くと堅苦しいイメージがありますが、そんな事はなく初心者から有段者まで和気あいあいと楽しく部活をしています。

試合においても優秀な成績を収めております。
伝統を大事にし精進していこうと思います。

音楽系クラブ練習棟および中央庭園テラス 名称決定のお知らせ

本学学生を対象に募集していましたグラウンドの音楽系クラブ練習棟および本校地中央庭園テラスの名称が選考決定されました！多数のご応募ありがとうございました。入選者に対し、表彰状ならびに副賞(図書カード)が贈呈されました。

<決定名称と名称理由>

○音楽系クラブ練習棟(グラウンド)

：奏楽館【そうがくかん】

⇒音楽系クラブなので、音楽を演奏する=「奏楽」。
音のひびきもきれいだから。

○中央庭園テラス1(躬行館の図書館棟前)

：ソフィアテラス

⇒本学の建学の精神である愛学躬行-Philosophia et Praktikos-から引用。ソフィア(sophia)だけでもギリシャ語で「知恵」を意味する。校舎と同じようにテラスにも愛学躬行の精神+知恵をと思い命名した。

○中央庭園テラス2(愛学館食堂前の円形テラス)

：プラクティテラス

⇒本学の建学の精神である愛学躬行-Philosophia et Praktikos-から引用。ソフィアテラスと対になるように考えた。

お知らせ

他大学の科目・講座を受けてみませんか!!!

【単位互換制度】

本学は「大学コンソーシアム京都」の単位互換制度に参加しており、京都地域を中心とした大学・短期大学が提供する科目を履修し、単位を修得すれば本学の単位として認定されます（2010年度は48大学から531科目が提供されました）。つまり、京都薬科大学に在籍しながら他大学の授業を受講することができるわけです。修得した単位は、1年間2科目4単位を限度として、本学の卒業要件である「人と文化」の選択科目の単位として加算され、それを超えて履修した科目の単位については、自由科目として認定されます（本学での取扱いについての詳細は、学生便覧及びシラバスを参照して下さい）。

単位互換制度の特徴として、

- ①講義科目は文化・芸術・政治・自然科学などほぼ全ての学問分野にわたる科目が10テーマに分類され提供されている。
- ②講義形態は持出講義と既存講義があり、持出講義は集中講義や土曜日・夏季休暇期間に開講されるなど、他大学生でも受講しやすいよう工夫されている。
- ③持出講義の開講場所は、「キャンパスプラザ京都」（京都駅前）にて開講される。
- ④講義を受講することにより、他大学生との交流の機会が広がる。
- ⑤受講生は単位互換履修生として身分証明書が発行され、科目開設大学の図書館等を利用することができる。
- ⑥全ての科目を無料で受講できる（ただし、科目によっては、参考書等テキスト代が必要）。などという点も、この制度の大きな特徴と言えるでしょう。

受講の申し込みは、前期・集中・後期科目とも4月8日（金）までにWebにて出願票作成後、教務課に提出して下さい。詳しい出願方法・授業概要等については教務課にて配布している「単位互換履修生募集ガイド」を見て下さい。

また、大学コンソーシアム京都ではホームページ上で単位互換科目のシラバスを公開しています。

<PC><http://www.consortium.or.jp/student/tan-i/>
<携帯><http://cs.consortium.or.jp/student/m/>

科目開講時には休講・補講・試験等の連絡事項も閲覧することができます。

奨学金のご案内

奨学金は、①日本学生支援機構奨学金 ②京都薬科大学奨学金（大学独自の奨学金） ③地方自治体の奨学金 ④企業・団体の奨学金に大別できます。

それぞれについて、以下に簡単に説明します。

①日本学生支援機構奨学金

「第一種奨学金」（無利子）と「第二種奨学金」（有利子）の二種類の奨学金があります。

4月初旬に、説明会を実施しますので、希望者は必ず出席して下さい（詳細は奨学金関係掲示板に掲示）。

奨学生に採用されると、卒業するまで奨学金が貸与されます（ただし留年及び休学中は停止）。

なお、1年次生で奨学生に採用されなくても、2年次生以上の各学年で再び申請することができます。

【基本月額】

何れかの希望月額を選択できます。

○第一種奨学金（無利子）

- ・学部 3万円（自宅、自宅外）、5.4万円（自宅）、6.4万円（自宅外）
- ・博士前期 5万円、8.8万円
- ・博士後期 8万円、12.2万円

○第二種奨学金（有利子）

- ・学部 3万円、5万円、8万円、10万円、12万円（12万円を選択した場合は2万円の増額希望可能）
- ・大学院 5万円、8万円、10万円、13万円、15万円

○入学時特別増額貸与奨学金（有利子）

大学、大学院の第1学年において日本学生支援機構が定めた年月を始期として奨学金（第一種・第二種）の貸与を受ける者が対象。

- ・10万円、20万円、30万円、40万円、50万円

○緊急・応急採用奨学金

出願の1年以内に家計を支えている者が、失職・破産・会社の倒産・病気・死亡等により家計が急変したため緊急に奨学金の必要が生じた場合に随時受け付けています。

②京都薬科大学奨学金

○給付型（返還義務なし）

- ・学部新入生 半期授業料の2分の1
- ・大学院新入生 半期授業料

入試成績が優秀な学部生約10名・大学院生約3名に対し、大学が選考（申請ではない）し、6月に給付します。

- ・学部在学学生 20万円

2年次から6年次に在学し、各学年約10名の特に学業成績優秀者（前年次の成績）に対し、大学が選考（申請ではない）し、6月に給付します。

○授業料減免型

・主たる家計支持者の死亡、失業等により家計が急変し、本学納付金の支払が困難な学部在学学生約20名に対し、半期授業料の一部（60万円）減免を在学中1回に限り、随時受け付けています。

○貸与型（無利子貸与）

- ・学部 年額 授業料の1/2 以内
- ・大学院 年額70万円以内

学部生・大学院生併せて10名程度を募集します。9

月の下旬に、説明会を開催しますので、希望者は必ず出席して下さい（詳細は奨学金関係掲示板に掲示）。

決定は11月初旬の予定で、同月下旬には、奨学金を一括支給します。原則として、1年限りの奨学金です。

③④地方自治体、企業・団体の奨学金

これらの奨学金のうち、学生課を通じて募集するものについては、募集の都度掲示板に掲示します。ただし、直接それら団体が募集するものについては、各自地元の教育委員会等に問い合わせして下さい。

以上簡単に説明しましたが、奨学金に関する質問などがありましたら、早めに学生課へお問い合わせ下さい。

学生相談室のご案内

充実した学生生活を送るために、学業のこと、家族のこと、友だちのこと、自分のこと・・・どんなことでもお気軽にご相談ください。精神科医および臨床心理士による相談室があります。

相談内容について、秘密は全て守られます。

学生相談室担当

精神科医1名

月1回、詳細日程は毎回掲示にて確認してください
臨床心理士2名

日 時：毎週火・金曜日午前10時から午後2時まで
場 所：愛学館1階 医務室内カウンセリングルーム
相談方法：医務室で相談日時の予約をしてください
受 付：学生課・医務室

電話・メールでの予約先は下記の通りです。

連絡先： 学生課 075-595-4614（直通）
E-mail：gakusou@mb.kyoto-phu.ac.jp

不審な問い合わせにご注意下さい！

学生の実家へ京都薬科大学の職員などと称し、「下宿の住所」や「携帯電話の番号」を聞き出そうとする不審電話の報告が寄せられています。

本学では、学生の個人情報に関するこのような問い合わせは、一切行っておりません。

このような問い合わせ電話には、「答えられない」とはっきり拒否していただくとともに、お手数でも学生課にご連絡いただきますようお願い致します。

連絡先： 学生課 075-595-4614（直通）

京薬祭実行委員会

2011年1月、学園祭も無事終わり、新幹部も決定し、そろそろ本格的に次の学園祭に向け活動し始めているところです。京薬祭実行委員会は70～80人と数も多く、毎年行われる大学の一大イベント、「京薬祭」をみんなで力を合わせて一から作っていく団体です。

2011年度には新しいステージや中庭が完成します。新しい京薬で、これまでなかったような新しい学園祭を作ることが僕たち実行委員の目標です。

学園祭を作っていくうえでもっとも大切なもの、それは人と人とのつながりです。学園祭の準備をしていくうえで数え切れないほど多くの人とのかかわりを持ちます。多くの人とのかかわり、感謝し、そして自分たちもまた一步成長する。ただ学園祭を作るだけでなく、そういったことも大切にしながらこれからも活動を続けていきたいと思っています。

2011年度 京薬祭実行委員会
実行委員長 福田 智哉

2010年度学位記（博士・修士）及び卒業証書・学位記（学士）授与式

2010年度学位記（博士・修士）及び卒業証書・学位記（学士）授与式を、3月19日（土）午前10時から中央講堂兼体育館で執り行いました。

大学院博士後期課程2名、博士前期課程93名、修士課程9名に学位記（博士又は修士）、学部製薬化学科2名に卒業証書・学位記（学士）が乾学長より授与されました。

学位記（博士）授与式

3月19日（土）午前11時30分から愛学館第1会議室において、2010年度課程博士3名及び課程によらない博士（後期）3名に、乾学長から学位記が授与されました。

人 事

任命

動物研究センター長 教 授 山本 昌
(任期：2011. 4. 1～2012. 3. 31)

昇任

創薬科学系薬品製造学分野 助 教 岩崎 宏樹
事務局会計課長 安本 義仁
事務局施設課長 富永 重夫
事務局学生課 係 長 平 薫
(以上 2011. 4. 1付)

昇任・配置換

事務局学生課 係 長 星野 展宏
(以上 2011. 1. 1付)

課長代理

事務局学生課長代理 係 長 星野 展宏
(以上 2011. 4. 1付)

採用

創薬科学系薬品化学分野 教 授 赤路 健一
生命薬科学系衛生化学分野 助 教 松尾 剛明
分析薬科学系代謝分析学分野 助 手 内藤 行喜
(内部監査部門) 契約職員 能勢 俊彦
事務局入試課 契約事務職員 近藤 芳未
(以上 2011. 4. 1付)

薬学教育系教育研究総合センター臨床薬学教育研究センター
特命教授 稲田 節子
薬学教育系教育研究総合センター臨床薬学教育研究センター
特命教授 金澤 治男
薬学教育系教育研究総合センター臨床薬学教育研究センター
特命教授 佐藤 隆司
薬学教育系教育研究総合センター臨床薬学教育研究センター
特命教授 谷口 隆之
薬学教育系教育研究総合センター臨床薬学教育研究センター
特命教授 西野 武志
薬学教育系教育研究総合センター臨床薬学教育研究センター
特命教授 野出 學
薬学教育系教育研究総合センター臨床薬学教育研究センター
特命教授 藤本 貞毅
薬学教育系教育研究総合センター臨床薬学教育研究センター
特命教授 蓑内 徳藏
(以上 契約期間：2011. 4. 1～2012. 3. 31)

特任教授 岡田 耕二 (京都府立医科大学附属病院)
特任教授 佐原 敏之
(医療法人社団洛和会 洛和会音羽病院)
特任教授 三上 正 (京都第二赤十字病院)
(以上2011. 4. 1付)

出向

事務局進路支援課 主 幹 北島 康光
(以上2011. 4. 1付)

退職

創薬科学系薬品化学分野 教 授 木曾 良明
生命薬科学系病態生理学分野 教 授 谷口 隆之
創薬科学系薬品化学分野 助 教 日高 興士
事務局会計課 課 長 能勢 俊彦
事務局施設課 課 長 宮本 孝
事務局学生課 課 長 桑原 敏則
事務局庶務課 主査 (契約職員) 眞下 成良
(以上2011. 3. 31付)

京薬会だより

<2011年度 卒後教育講座>

2011年度卒後教育講座は、大学キャンパスで開講する講座 (卒後教育A) およびインターネット配信による講座 (卒後教育B) を例年に準じて開講します。詳細は、3月下旬より京薬会ホームページ (<http://www.kpu-aa.com/>)・薬業紙等で案内しております。

<2011年度 京薬会代議員総会>

2011年度代議員総会が4月23日 (土) 午後より愛学ホールで開催されます。また、午前中には代議員総会に先立ち支部長会および年次代議員会 (後者は初の試み) が行われます。本年度は、大学法人の評議員改選 (3年に一度) に合わせるため例年に比べて1ヶ月早い開催となります。

<京薬会ホームページのリニューアル>

2011年2月より、京薬会ホームページ (<http://www.kpu-aa.com/>) がリニューアルされました。京薬会活動の一般公開情報を大幅に増やし、クラブ (同好会) OB会、京薬会支部会、同窓会開催情報など本学学生の皆様にも閲覧・活用いただける情報が多くあります。また、会員のページ中にクラブのページ、研究室のページなどの設置が可能ですのでご利用下さい。

<学生支援>

今年度の京薬会からのクラブ活動支援は、12月9日のキャップ会の席で、総額135万円が30クラブに対して分配されました。京都薬科大学のクラブ活動が、今後益々活発になるよう応援しています。一方、12月4日の駅伝大会およびぜんざい会に協賛・支援しましたが、とくに後者は例年以上に盛況で約600食のぜんざいとソフトドリンクが提供されました。

<学部新入生に分子モデル配布>

京薬会では学部新入生に入学祝として小型分子モデルを4月入学時に配布します。もし配布漏れがありましたら、京薬会事務室までお申し出下さい。

京都薬科大学奨学寄附金ご芳名録

下記の方々から寄附をお寄せいただきました。ご協力ありがとうございました。

* 高額のご寄附（10万円以上）を頂いた方は、京都薬科大学奨学金規則及び学生便覧に掲載させていただきます。

* 敬称略、ご芳名のみ掲載しております。

2010年に寄附をお寄せいただいた方々

＜卒業生・同期会等（卒業年次順）＞

久保 巖(昭14)	木村賀代子(昭32)	吉光 博恵(昭36)	稲垣 美幸(昭45)	中井 信江(昭55)
石黒 道彦(昭19)	小林 晋(昭32)	渥美 行弘(昭37)	辻 孝範(昭45)	中嶋 淳子(昭55)
島田 俊作(昭19)	佐野 光市(昭32)	西尾 英明(昭37)	廣安 勉(昭45)	東浦 純子(昭55)
長谷川匡仁(昭19)	嶋田 博(昭32)	林 晴雄(昭37)	安藤 謙治(昭46)	平野 隆(昭55)
木野 雅男(昭20)	清水 政信(昭32)	本岡美智子(昭37)	木島 早苗(昭46)	山國 尚志(昭55)
生田 量一(昭24)	瀧野 雅子(昭32)	池崎 宗克(昭38)	米満 弘夫(昭47)	山國 規子(昭55)
久保田桃三(昭24)	田中 昌巳(昭32)	山下 慶子(昭38)	今井久美子(昭48)	山田 知子(昭55)
小財 勲(昭24)	得丸 茂年(昭32)	吉富堅一郎(昭38)	辻 美稚子(昭48)	匿名希望 (昭55)
佐山 福繁(昭24)	豊田 義子(昭32)	浅井 俊義(昭39)	二木 克己(昭48)	匿名希望 (昭55)
田代 益子(昭27)	内藤 裕義(昭32)	仮家 公夫(昭39)	佐藤 嘉純(昭49)	神川 邦久(昭56)
岩城 宗吉(昭28)	中野 淳子(昭32)	六車 昭美(昭39)	安武 廣(昭49)	児玉智永子(昭56)
宇本 芳樹(昭28)	服部 健三(昭32)	加納 亜子(昭40)	清水 薫(昭50)	竹田奈保美(昭56)
豊田 博文(昭28)	林 規子(昭32)	神田橋紘子(昭40)	樹下 成徳(昭50)	森田 祐子(昭56)
牧 敬文(昭28)	平地美紗子(昭32)	野口 隆志(昭40)	中嶋 澄江(昭50)	吉村 聡子(昭56)
安藤 寛治(昭29)	広畑美代子(昭32)	野口 紘子(昭40)	永田あさ子(昭50)	有田 昌純(昭58)
後藤 和之(昭29)	藤井 信夫(昭32)	久山 弥栄(昭40)	猪奥 耕一(昭52)	市川 克己(昭59)
滝野 哲(昭29)	松田 朝安(昭32)	前田トシ子(昭40)	北尾 善信(昭52)	猪奥真理子(昭60)
三浦 一子(昭29)	森田 政子(昭32)	斎藤 安正(昭41)	島 知子(昭52)	抱 隆史(昭61)
山本 幸彦(昭30)	森脇 茂子(昭32)	杉浦 純子(昭41)	三上 正(昭52)	山口 昌史(昭61)
岡本 秀雄(昭31)	山本 穎(昭32)	七海 朗(昭41)	森 一二美(昭52)	福山由希子(昭62)
千歳 嘉子(昭31)	山本 準子(昭32)	七海 禮子(昭41)	柘植 邦博(昭53)	東 富雄(昭63)
得居 怜子(昭31)	若松 道雄(昭32)	藤田 成孝(昭41)	服部 恵子(昭53)	藤原 篤子(昭63)
山本 珠子(昭31)	渡部 一榮(昭32)	谷口 睦子(昭42)	新井 理恵(昭55)	江藤 裕子(平04)
池田 正義(昭32)	柴田 浩子(昭33)	平越 孝平(昭42)	宇野 智子(昭55)	深津 紀子(平06)
池田 正明(昭32)	木村 恵一(昭34)	匿名希望 (昭42)	岡 幸一(昭55)	山下 和紀(平08)
浮田 和也(昭32)	森田 康子(昭34)	山口 博行(昭42)	小川 博義(昭55)	安田 江里(平16)
大谷 市郎(昭32)	柳田紀美枝(昭34)	久米 和子(昭43)	神原 由美(昭55)	屋木 祐亮(平21)
大西 恭輔(昭32)	湯浅 忠男(昭34)	古本 靖弘(昭43)	北川 明子(昭55)	京薬五五会(昭32)
尾崎 将文(昭32)	渋谷 禎彦(昭35)	古本 良子(昭43)	杉浦 美智(昭55)	京薬S55会(昭55)
尾崎美代子(昭32)	梅谷 俊子(昭36)	村岡 孝子(昭43)	杉野 裕子(昭55)	塩野義製薬株式会社
小田 雅岐(昭32)	小林 早苗(昭36)	渡辺 温(昭43)	杉山 和子(昭55)	京薬会 有志一同
片岡 勲(昭32)	新谷 昭法(昭36)	青山 昭策(昭44)	田中 順子(昭55)	昭和60年卒同窓会
加野 弘道(昭32)	林 智香子(昭36)	池阪喜代子(昭44)	田中眞由美(昭55)	微生会2010
鎌田 潤子(昭32)	平原 靖子(昭36)	林 恵子(昭44)	辻尾 邦恵(昭55)	京薬会

＜企業・団体・一般＞

阿倍 幸子 愛知株式会社京都営業所 近電商事株式会社 和研薬株式会社 匿名希望1社

＜法人役員・評議員・職員（五十音順）＞

蘆田 康子(理事)	北村 享子(助教)	白木太一郎(評議員)	長澤 吉則(准教授)	村山猪一郎(監事)
飯居 宏美(助教)	久米 光(評議員)	高野 江里(課長)	西口 工司(教授)	森田 和子(評議員)
乾 賢一(学長)	小里 芳顕(課長)	高山 明(教授)	能勢 俊彦(課長)	山岸 伸行(准教授)
入江 一充(監事)	後藤 直正(教授)	武田 禮二(理事)	浜崎 博(教授)	山口 泰秀(評議員)
上西 潤一(教授)	近藤 伸子(課長補佐)	田村 正昭(理事長)	松井 常孝(評議員)	山下 豊彦(課長)
小関 稔(助教)	坂口由美子(主事)	辻本 雅之(講師)	宮秋 昭(理事)	吉川 雅之(教授)
加納 良章(主事)	坂根 稔康(准教授)	土田 花美(係長)	宮本 茂敏(理事)	
菊本 均(評議員)	佐々木善文(主幹)	土屋 勝(理事)	宮本 孝(課長)	
北出 達也(教授)	佐原 和美(係長)	長澤 一樹(教授)	村澤 悟(局長)	

＜元教授（五十音順）＞

金澤 治男 佐藤 隆司 西野 武志 舟崎 紀昭

2011年に寄附をお寄せいただいた方々

＜卒業生・同期会等（卒業年次順）＞

小財 勲(昭24)	伊倉 嘉春(昭34)	栃本 文男(昭40)	山下 政彦(昭42)	大町佐千美(昭54)
倉本 昌明(昭28)	木村 恵一(昭34)	下山 幹雄(昭41)	大西和嘉子(昭43)	竹田奈保美(昭56)
小塚 睦夫(昭28)	谷本 博子(昭34)	富永 宏資(昭41)	土居 靖典(昭43)	足立 美幸(昭57)
牧 敬文(昭28)	吉川 明男(昭35)	七海 朗(昭41)	世良 民代(昭46)	岡本 耕司(平12)
山田 亮逸(昭28)	福田芙美子(昭37)	七海 禮子(昭41)	小林 茂(昭47)	岡本 珠香(平12)
田辺 隆夫(昭29)	本岡美智子(昭37)	谷口 睦子(昭42)	安武 廣(昭49)	昭和60年卒同窓会
高鳥 市朗(昭30)	岡 カヅ子(昭38)	平越 孝平(昭42)	夏目 郁子(昭50)	
中道 律子(昭31)	中西あき子(昭38)	山口 博行(昭42)	森 一二美(昭52)	

＜企業・団体・一般＞

板金 由記

＜法人役員・評議員・職員（五十音順）＞

石黒 博直(評議員) 北出 達也(教授) 高山 明(教授) 宮本 茂敏(理事) 山下 豊彦(課長)

(2011年2月28日現在)

このたびの東北地方太平洋沖地震および津波により被災された皆様に対し、心よりお見舞い申し上げます。

京都薬科大学 理事長 田村 正昭
学 長 乾 賢一